

九州本部拡大委員会開催



中村代議員

国労加入歓迎！職場の
不満、疑問、相談は国労
博多地区本部へ
メールアドレス
jnru596@ybb.ne.jp

2月4日(火)13時よりウエル戸畑にて九州本部拡大委員会が開催され、博多地区本部からは中村書記長、佐藤(久・熊)分会書記長、香田執行委員が代議員として参加しました。中村代議員は、「職場では若手社員を中心に不満が広がっている。私たちが積極的に声掛けをして、交流を深め、信頼を得ることが国労の発展、さらには労働条件の改善につながる」と労働運動の基本に立ち返ることの重要性を指摘。香田代議員は、「組織拡大も大事だが、私たちが少数派であることは間違いない。だったら多数派のものまねをするのではなく、少数派ならではの取り組みが必要。職場の掲示板等を活用して、もっと『個性』を出すことで『一人ひとりが輝いている』組織にしなければいけない」と「数の論理」にとらわれて「個人で出来ること」を疎かにしないよう組織の在り方を見直す必要性を訴えました。その他、「会社は、こんな低賃金で社員を働かせるのなら、せめてアルバイトくらいは認めて欲しい」「職場では、会社を辞める若手社員が目立つ。自分の生活を守るための唯一の手段が転職だなんて・・・」「今の賃金では、家のローンなんてとても払えない。既婚で家を買った若手社員の食事は、コンビニのパンばかり」といった切実な発言も各地区本部から出ていました。

組合員数も減り、今後どうなるかだろうという不安はあるけれども、「少数精鋭」として「最低限やるべきこと、出来ること」を地道に続けていきたいと思いますという前向きな集約のもと、最後は「団結ガンパロー」で締めくくりました。

今回の議題<マスクについて>

新型コロナウイルスの拡大に伴い、各職場ではマスクを着用しての業務が認められるようになりましたが、同時に、少なからずトラブルも発生しています。これは、某車掌区での話ですが、とある車掌が特急列車に乗務した際、グレーのマスクを着用していたのが本社の社員の目に入り、「サービス業」に携わる者としてどうなのかといった内容の指摘を受けたようです。しかし、「現状」を考えた場合、この指摘には多くの問題があります。当日車掌が乗務していた列車は、某国からの観光客が多数(8割ほど)乗車しており、ニュースの報道からもマスクが必要なのは明白で、本人も白マスクを購入しようと多くの店舗を回ってみたが、どこも売り切れていた。そのため、唯一売れ残っていたグレーのマスクを購入せざるを得なかった。という単純明快なストーリーは、中学生でも想像できます。また、これを指摘した本社の社員も、「現場」にいたにもかかわらず、直接本人に確認することなく、わざわざ「職場」に「電話」する必要があったのかと首を傾げずにはいられません。その当時、職場でもマスクを配布してはいましたが、その造りは、まるで、おもちゃの変装用マスクと言ってもおかしくないほどスカスカで、とても「感染防止」には適したものではありませんでした。何より、指摘を受けた本人も、きちんとした白マスクがあれば、それを着用して乗務していたであろうことは容易に想像が出来ることから、本人に「サービス精神」の有無を問うのは筋違いといえるでしょう。そもそも、ここで重要なのは、「乗務員がウイルスに感染しないこと」であって、「サービス」がどうこうではありません。現在、会社側も理解を示したのか、職場では「立体マスク」が配られています。問題はその経緯ですね。ちなみに、博多地区本部の会議では、もし同じようなケースに遭遇したら、「自分も間違いなくグレーのマスクを着用する！」と参加者全員が口を揃えて回答しました。当然ですね。それでは、引き続き、感染防止に努めましょう。

○当面する行動

- 2月12日(水)18:30~/原水禁福岡地区実行委員会 福岡市教育会館
- 2月21日(金)17:40~/筑紫平和センター映画鑑賞会 大野城まどかピア
- 2月29日(土)15:00~/国労家族会九州連合会第18回定期大会 エイムアテイン博多駅前6A会議室